

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和6年度 技術情報第10号（早期水稻のセジロウンカ）について（送付）

早期水稻のセジロウンカについて、下記のとおり取りまとめましたので、周知およびご指導をよろしくお願いいたします。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ（<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujoshou/>）にも掲載しています。



令和6年度 技術情報第10号

5月中旬の早期水稻で、セジロウンカの発生しているほ場が確認されています。ウンカ類に効果のある箱処理剤を使用していないほ場ではよく見回り、今後の急激な増加を見落とさないように注意して下さい。

1 対象病害虫 セジロウンカ

2 対象作物 早期水稻

3 発生状況等

(1) 5月10日～17日に実施した県本土の巡回ほ場調査（26ほ場）において、50%（平年6%）のほ場で発生が認められ、吸汁・産卵による葉鞘褐変症状を数ほ場で確認し、幼虫の発生も認められた（図1）。現時点での、発生程度はいずれも少発生である（表1）。

4 防除対策及び防除上注意すべき事項

- (1) 防除適期は4月1日の飛来に由来する第2世代幼虫が6月9～13日、4月7日の飛来に由来する第2世代幼虫が6月12～16日と予想される（図2）。
- (2) セジロウンカの発生は地域やほ場により異なることから、ほ場全体を見回り、発生を確認する。特に箱処理剤を使用していないほ場は、定着して増殖する可能性が高い。
- (3) セジロウンカは株元に生息し、比較的若いイネを好んで吸汁する。また吸汁・産卵による葉鞘褐変症状が発生し、水稻の生育を阻害する。
- (4) 飼料用イネの品種は抵抗性が弱く、一般には起こらない坪枯れの被害を生じる場合がある。
- (5) 本田を防除する場合は、農薬が株元に十分届くよう散布する。

